

北海道の印刷

PRINTING INDUSTRY IN HOKKAIDO

第 747 号

[Website] <http://www.print.or.jp>

[E-mail] info@print.or.jp

8

2018

平成30年
8月10日発行

INDEX

印刷燦燦	3
平成30年度全道合同委員会・上期北海道地区印刷協議会	4・5
HAPPY INDUSTRY～人々の暮らしを彩り幸せを創る印刷産業	6～9
会長あいさつ	10
概要	11
パネルディスカッション案内 第1日	12
セミナー案内 第1日	13
HOPE2018	
パネルディスカッション案内 第2日	14
セミナー案内 第2日	15
会場案内図	16
出展一覧	17・18
「第2回『印刷と私』エッセイ・作文コンテスト作品募集」案内	19
業界のうごき	19
新規加入賛助会員紹介	19
紙上暑中見舞名刺交歓	20～24

《表紙》北海道の高い山 No.3 白雲岳 (2,230m) [8月：上川郡美瑛町]

北海道印刷工業組合

〒062-0003 札幌市豊平区美園3条5丁目1番15号 原ビル
TEL.011-595-8071/FAX.011-595-8072

UD
FONT
by MORISAWA

280
古紙パルプ配合率30%再生紙を使用

VEGETABLE
OIL INK

GREEN PRINTING INK
P-801129
ZINNOBERG社製環境配慮型インク
印刷に有害な重金属がほとんど含まれていません

CSR

この印刷物は、CSRに
取り組む印刷会社が製作
した印刷物です。

P-00023

印刷 燦 燦

ワールドカップで感じたこと

ロシアワールドカップを見たかた、興味ないかた・・・多々いらっしゃると思います。

私は、我が日本の戦いぶりを見て一喜一憂しました。

その中で感じたことですが、日本の選手が選手同士を讃え感謝に変わっていくその姿でした。

前回のワールドカップでは、本田選手を中心に構成されていた様に思います。常に本田選手を自軍の選手が意識し過ぎていて、相手エリアに入っても本田選手にパスを出し、ボールカットをされて、個人的見解ですがリズムが悪く、他の選手が伸び伸び出来ていないと感じていました。

しかし、今回のロシアワールドカップでは本田選手は控えにまわり、相当な葛藤、そして心のバランスを保つには大変だったんじゃないかなと考えます。

でも本田選手がフォア・ザ・チームに徹してくれて、今回躍動した柴崎選手、乾選手が際立った様に思います。宿舎に戻るバスの中でも、本田選手が音頭を取り、皆で歌を歌ったり、しりとりをしたり、自らのプライドを捨てチームに徹してくれたことにより他の選手が意見を言える環境を作ったと思います。試合結果もさることながら、監督が変わった2ヶ月間で纏まった印象があります。

一人がみんなのために、みんなが一人のために・・・

私も答えを持って接するのではなく、頭を柔らかくフラットにして接していかなければと感じました。

北海道印刷工業組合理事 前田 憲之
株式会社パスカル・プリンティング 常務取締役

印刷産業の活性化へ取り組む

平成30年度全道合同委員会・上期北海道地区印刷協議会

平成30年度全道合同委員会・上期北海道地区印刷協議会が、7月6日、午後1時から札幌市中央区のガーデンシティ札幌駅前で、来賓に全日本印刷工業組合連合会の白田真人会長、池尻淳一専務理事を迎え、全道から組合員・賛助会員40余人が出席して開催された。



岸 昌洋
北印工組 理事長

冒頭、岸 昌洋理事長が、「上期の地区印刷協議会ということから新しい期がスタートすることになる。本日は全印工連の白田会長から、今期からの新しい施策であるHAPPY INDUSTRYについて享受いただき、池尻専務理事からの知的財産権のセミナーということになる。長丁場になるが協力願いたい」とあいさつを述べた。



白田真人
全印工連 会長

来賓紹介につづき、白田真人全印工連会長が、「全印工連会長として2期目、3年を迎えた。このような地区印刷協議会が全国9カ所で開催されている。そのなかでも北海道地区印刷協議会は本当に女性が少ない。たった1人だけである。働き方改革で女性活躍という言葉を聞かない日はないかと思うが、今我々の組合でも各地区非常に女性の経営者の方々が組合活動に多く参画していただけるようになっている。是非、北海道においてもお願いしたい。女性の方は本当に元気で、東京地区協で女性の方6人に囲まれて、会長、私たちの女性活躍推進をどのように考えているのかと30分位直談判され、懇親会の時間の半分くらいは女性社長に囲まれ、吊るし上げのようなかたちになった。女性が男性かという話でなく、旧来型の固定観念から脱して、新たな観点、新たなアイデアを多く持っている女性の経営者の方々を招き、それぞれの地域、そしてなによりも印刷産業を活性化する動きを是非、取り組んでいただきたい。全印工

連は47都道府県のうち、この改選期で15県の理事長が交代された。9地区の地区印刷協議会でも6エリアのリーダーが新しく代わった。この9人の地区のリーダーの最年長は61歳である。最年少は私で、その平均年齢は55歳を下回った。若ければ良いという話では決してないし、何か仕組みで若返ったわけではないと思っている。これは時代の変革のスピード、これに合わせて先輩方が10年、20年先を見据えてこの業界をどう変えていくのか、どう樞切りをしていくのか、そこには若い世代を送りこもうと、そういった流れで現在このようなかたちで全印工連の各地域のリーダーが若返りを果たした。そのように私は自覚をしている。ここで話をさせていただいている私は、決して上位の偉い立場ではない。私自身も1中小企業の経営者として、皆さんとともにこの印刷産業、各社が力強く経営力をさらに持ってやることによって、各地域そして何よりも日本の印刷産業が元気になる、こんなことに私も微力ながらなんとか役に立ちたいと思う次第でこちらにも来させていただき、皆さんの前でこのように話をさせていただいている。全印工連という事業を通じて皆さんとともにさまざまな現況の情報交換をさせていただきながら、これからどんどん変わっていく経営環境のなかでの経営ヒントを共有させていただきながら、結果として地域、日本の印刷産業を皆さんとともに盛り上げるため、私自身邁進していく所存である。是非ともこの地域、北海道そして皆さんの団結力をもって盛り上げていただきたい」とあいさつを述べた。



池尻淳一
全印工連 専務理事

次に、池尻淳一専務理事から、全印工連の事業概況についての説明が行われた。

(1) 全印工連平成30年度事業計画

今年はHAPPY INDUSTRYというテーマを掲げて、幸せな働き方改革を進めるので、これに沿った機構にした。三役会直轄の機関として幸せな働き方改革プロジェクトチームを設け、皆さんが実際に働き方改革に着手できるような地に足を付けた事業を行っていく。

教育研修委員会のなかに教育コンテンツ開発部会を設置した。

(2) 2018全日本印刷文化典高知大会の開催

10月5日、6日の2日間、高知で全日本印刷文化典を開催する。一人でも多く参加してほしい。

(3) 官公需活動アンケート調査結果

全印工連からの要請を受けて各工組が地元自治体への働きかけの状況は、60%の組合で役員が県・市に出向いて啓発を行っている。今年度中に行う組合が8.5%、検討中は19.1%となっている。具体的な啓発方法は、組合が独自で行ったが18工組、地元の議員の支援を受けたが7工組、中央会の支援を受けて行ったが3工組となっている。その反応は、なかなか関心を持っていただけない、反応がないということが目立つ。このようななかで好事例の提供が2つあった。1つは愛知県で、「印刷会社が修正・作成した印刷用データの著作権は、元データを県が提供した場合であっても印刷会社に帰属するので、印刷会社が修正したデータを県に提出させることはできない」と注意喚起している。2つは兵庫県で、仕様書でデザイン・レイアウト等を「要」とした場合やイラストを「作成」、写真を「業者準備」とした場合は、「著作権は県に帰属する」とは記載できないこと。また仕様書にデータを求めるかどうかの記載欄を設けるとともに、求めるデータはPDFのみとする。最低制限価格制度の導入状況は、24県で既に導入されている。やっと半分である。全印工連はこの運動を続けているがなかなか伸びていない。最低制限価格を導入した場合の適用金額は100万円～250万円に集中している。これを如何に引き下げることが検討課題である。最低制限価格の設定率は60%～70%に集中している。最低制限価格が導入された場合の肝となる予定価格の算出方法は積算資料・物価資料で計算しているが21.6%、見積ソフトの利用が5.4%、前年度実績が27.0%、業者からの参



考見積が29.7%、積算を行っていないが2.7%あるがこれは論外である。前年度実績が27%あるが、今年70%の最低制限価格で積算されるとその落札価格は来年の予定価格になるので、その70%になると2年前の49%の金額で落とすことになる可能性があるため、この悪循環を断ち切るためには毎年積算をし直していただくことを強く訴えないとどんどん価格が下がっていくことになる。

(4) ダイバーシティマネジメント取組事例集の紹介

全印工連ダイバーシティ推進委員会の各委員が、自社の働き方改革を推進するうえで、課題、問題を抽出して一般事業主行動計画を作成したものである。一般事業主行動計画は、女性活躍推進法では従業員301人以上、次世代女性支援対策推進法では101人以上となっているが、中小企業でもこの計画を立てることによって社内外に呼びかけると高い評価を受けることができる。巻末にはダイバーシティ委員会で視察した取組企業の紹介、各委員の実際の感想の生の声を掲載している。

(5) 共同販売事業の紹介

- ①全印工連特別ライセンスプログラム事業
- ②VOC警報器
- ③クラウドバックアップサービス
- ④オリックス自動車のリースおよび中古車
- ⑤アクセスログ監視システム マイウォッチャー
- ⑥総合求人サイト「イーアイデム」特別プラン

この後、岸理事長から今後の北海道地区印刷協議会の運営方法、植平有治組織・共済事業委員長、岡部信吾経営革新・マーケティング事業委員長、西山真教育・研修事業委員長、大和繁樹労務・環境事業委員長、矢吹英俊青年部事業委員長から、各担当委員会の事業計画と実施内容についての説明がそれぞれ行われた。

HAPPY INDUSTRY

人々の暮らしを彩り幸せを創る印刷産業

臼田全工連会長が解説

7月6日に開催された平成30年度全道合同委員会・上期北海道地区印刷協議会で、臼田真人全日本印刷工業組合連合会会長が、本年度・来年度の全印工連の活動の基本方針である「HAPPY INDUSTRY～人々の暮らしを彩り幸せを創る印刷産業」についての解説を行った。

HAPPY INDUSTRY

HAPPY INDUSTRYという言葉であるが、全印工連は、最近、横文字が多くてよく分からないということを耳にする。HAPPYなINDUSTRYは分からないと困る。幸せな産業である。全印工連は、今年度と来年度の2年間で、人々の暮らしを彩り幸せを創る印刷産業を実現しようというテーマを基に組合事業を運営していく。

印刷100年企業の研究

私の祖父が40年くらい前に東印工組の支部長をやっていた。それから組合にお世話になって3世代目である。私自身の代になって組合にお世話になって20年くらい経った。業態変革プロジェクト等の中枢にかかわらせていただいて14～15年経った。その間のある時期に、印刷会社の創業100年以上の会社を中心に印刷100年企業の研究を行った。創業100年以上の印刷会社の創業時のきっかけは印刷の専門という方は殆どいなかった。元々は地元の新聞社が多かった。今でも印刷会社で何とか新報社、瞬報社という方が結構ある。地元紙のなごりが今でもある。富山に行くと元々は薬屋であった。または薬品メーカーの販促品（おまけ）を作っていた会社が、時代の流れでいつの間にか印刷の専門になってきた。青森に行くと水産加工会社で缶詰工場をやっていた。そのラベル印刷をやっていたら印刷が儲かるということで印刷の専門にシフトした。100年以上の印刷会社の創業のきっかけは、紙にインクを載せて届ける印刷の専門ではなく、その町、その町の産業、人々の暮らしを支えるための、正に今我々が使っている言葉でいうならばソリューション・プロバイダー、お悩みまたは人々の生活を支えた産業であったということである。そこから繙き、我々の経営環境は凄まじく変わってきている。

暮らしを彩り幸せを創り続ける

我々の生業、印刷業は、今から100前、戦後の高度経済成長期、モノがなくて兎に角、モノを作ろうという時代に呼応した。時代が変わり、今も普遍的なものは何かというと、正にテーマである人々の暮らしを彩り、幸せを創る印刷産業である。お客様にお届けする、お客様に喜んでいただく、かたちこそ当初の缶詰工場や薬品メーカー、新聞社からの昭和の時代のものづくりの印刷会社から、この時代のお客様の課題解決のこ

ミュニケーションのプロバイダー、お客様の想いをあらゆるかたちで伝えていくコミュニケーションを作っていくプロバイダーに変わってきているが、根本的には過去も今もこれからも人々の暮らしを彩り幸せを創り続ける。これには一切の変わりはないだろうということである。私たちの印刷産業は、人々の暮らしがある以上絶対に必要な生業である。印刷産業は、その地域、地域における、何によりも人々の生活における大変重要な生業であり、企業であり、産業である。これを改めて皆さんとしっかりと共有させていただいたうえで、さらに各企業はどんどん光放ち、すてきな能力の高い人材を業界に引き込む、引き込める、それだけ魅力のある産業にしていきたい。そういう思いを今回HAPPY INDUSTRYというテーマに込めさせていただいた。

印刷組合の事業計画書

これまで全印工連は、提唱してきた印刷産業の未来というかたちで、いくつかの本を発行してきた。「業態変革推進プラン7KEYS」が終わり、その後「ソリューション・プロバイダーへの進化」である。そろそろ印刷の専門からお客様の問題解決をサービスという名の付加をしてお客様に喜んでいただく企業を目指そうというロードマップを示させていただいた。その第2弾が「印刷道」である。それはソリューション・プロバイダーで示した幾つかのロードマップをさらに掘り下げた内容を示させていただいた。この2冊の本は、全印工連の組合員の皆さん1社1社のガイドブックというロードマップ、経営支援のツールとして使っていただきたい。そんな思いで全印工連は発行させていただいた。「全印工連2025計画-新しい印刷産業へのリ・デザイン」は、印刷産業全体がこの先、近未来にどうなっていくべきなのかといった印刷産業全体のビジョンをまとめた冊子である。その相関性は、全印工連2025計画は印刷産業が目指すビジョンである。業態変革からはじまったソリューション・プロバイダーへの進化、印刷道は、組合員の皆さんが参考にさせていただく冊子である。今回のHAPPY INDUSTRYは、これからさらに加速度を付けて変化していく経営環境のなかで、組合員の皆さんに対してどのようなかたちの支援サービス、皆さんが価値を感じていただけるような印刷組合の事業を設計していくのかという、印刷組合の事業計画書である。

産業戦略デザイン室

冊子には今回抽出した案件に関して、この後、全印工連として組合員の皆さんに提供し得るものを纏めさせていただいた。この先、全印工連がどのようなかたちで組合員の皆さんに、さまざまなコンテンツを提供するのかがなかに入っているの一読いただきたい。

何故、これを作ろうという話になったかという、労働人口の減少、情報化、高度情報化、価値観の多様化、働き方の変化は今さらいうまでもなく、経営者の皆さんは肌で痛感されている。出荷額のピークは1997年が8兆9千億円で、それ以降は日本における印刷の総出荷額は右肩下がりである。これは否定できない事実である。このなかで私たちは従来と同じ印刷組合の取り組み、事業運営は、全国の皆さんから印刷組合のメリットが分からないと言われても仕方がない。右肩上がりの時とは今は違う。印刷組合は昔ながらのところは凄く多かった。それは何処かで転換しなければならない。印刷組合はこの先さらにどのようなかたちで皆さんの役に立てるのかを、今このタイミングで現役の経営者の皆さんとともに本気で未来に向けて考えて事業計画を立てることを今はじめなければ10年、15年後手遅れになる。日本の人口減少と同じように分かっているのに手を打たない。であるならば皆さんとともに今このタイミングでこの組合自体がこの先どのようなかたちで価値のある組織になっていくのかを考えていこうというのがHAPPY INDUSTRYを作るきっかけになった考え方である。HAPPY INDUSTRYの取りまとめについては全印工連のなかに産業戦略デザイン室という委員会があり、全国から集まっていたき約1年かけてさまざまな議論、さまざまなテーマに基づいた激論を交わしていただいたうえで、私たちの仲間が取りまとめてくれた本当に、血と汗の結晶である。決してどこかのシンクタンクがまとめた内容ではない。

経営革新対策、マーケット対策、技術対策

3つのサークルは我々が今置かれている経営環境の課題もしくはこれから起こり得るであろう経営環境の障壁となるものを先ず抽出した。その3つのサークルは、経営革新対策、マーケット対策、技術対策で被る部分も出て来る。さまざまな角度から我々の経営環境の起こりうる事案をこのようなかたちで抽出した。このツールは今この時代に始めて組合活動のなかで考え、使ったツールではない。1999年、その時の我々の先輩方がこのツールを用いて当時の組合事業を全部見直した過去の歴史がある。その当時、使われたツールを今また改めて私たちが利用させていただき、今の時代に見合った内容に書き換えさせていただいた。経営環境がどんどん変わっていき、組合のあり方もどんどん変わっていく。過去の組合を否定するものではなく。過去があって今がある。そしてこれからがある。私たちは今現役の当事者として過去の先達が作られた知恵の結晶を今この時代に合わせ

て書き換えさせていただく仕事を担っている。それを執行させていただいた。そのようなかたちで短期(1~2年)、中期(3~4年)、長期(5年以上)かけて組合員の皆さんに対して、何等かのかたちで組合としての支援メニューを提供できないかというものを、優先順位をつけて体系化したものである。

生産管理の見える化

特に話をさせていただきたいのは、短期のなかの上から2番目、FRP、MIS導入・活用(共同開発)である。東印工組の組合員は1,143社いるが、そのなかの8割は10人以下の会社である。そのほとんどの方は生産管理ソフトを持っていない。せいぜい会計ソフトである。1,143社の6割は5人以下である。その方は生産管理ソフトも会計ソフトも持っていない。これが東印工組の実態である。会計ソフトは計算して複写伝票を使えば何とかなる。ただこの時代、生産管理だけはしっかりと数値管理をしなければ製造業としての収益を確保することが難しくなってきた。印刷機の音が聞こえるから安心して眠れるという経営者はもういない。今日は動いているから一杯飲みに行こうというような時代ではない。しっかりと何処のラインがどのくらいの生産効率をもってして生産性を高めるのか。ロス率がどれだけあるのか。そこにどれだけの人材が必要なのか。本当にここに2.5人必要なのか。他の部署に必要なのではないか。機械があれば自動化できるのでもう職人はいらぬ。プロファイルをしっかりしてデータファイルをしっかりしないと増刷に対応できない。ここ10、20年の間に印刷技術、印刷設備・機械はともにどんどん進化している。事業規模を問わず、50人以上のところでは1千万円、2千万円かけても自社の生産管理ソフトを開発し対応されている。全印工連の1社あたりの平均従業員数は20人である。私はこのような話をさせていただく対象は、基本的には20人以下の方々を対象に話をさせていただいている。20人以下の企業の方々には生産管理ソフトを1千万円、2千万円を投資して作れるか。お金が一杯余っている方は使っていただければいいが、今の現実では正直なかなか難しい。似たようなソフトをA社もB社もC社も、5千社が1千万円、2千万円かけてそれぞれのソフトを開発したところで、どれだけ産業として経済ロスか。少し大きな話になるが、全印工連としての希望的目論見は、自社で解決しきれない多くの全印工連の組合員の皆さんに、汎用型生産管理ソフトを開発し、比較的安価に提供できないか。そうすることによって各社が生産管理をしっかりと数値化する。生産管理の見える化を浸透していくことを今後進めていきたい。

MISの開発に着手

ただ、見える化は社内での生産効率を上げるための1つの手段にしかすぎないので、その次のステップは生産管理をするなかで、我々中小企業は実際にはインラインで、ワンラインでスマートファクトリー化して、

ファクトリーオートメーションで全自動というのはなかなか難しい。同じ判型の印刷物を大量生産するという前提のもとにワンラインでのフルオートメーション化が現実化する。多くの全印工連に加盟している企業の皆さんは同じ印刷物を毎日製造し続けるというパターンは結構少ない。なぜかというとな商業印刷の方が多いので。今日はA4、今日はB5、今日は冊子物、今日はポップ、今日はフライヤーと違う訳である。印刷を終わったあとのフィニッシャーは、ワンライン、インラインでさーっと行けるわけでない。それに適したフィニッシャーに切り替えていかなければならない。もしくは協力会社に外注しなければならない。社内工程でそういったさまざまな設備を持っているとしてもこれはあくまでもニアラインであり、一旦そこで作業が止まって、ニアラインで、デリバリーして次のラインに流す。これが全印工連の多くの方々の実態である。そういったところに関して、ニアライン、アナログの部分でもきちんと生産工程管理はできる。それが汎用型であれば理想的な目論見と話したが、これが多くの全印工連の皆さんが同じソフトウェア、同じジョブチケットフォーマットを運用していただくことによって、近隣の企業とのジョブのやりとり、オンラインで融通をできるようになる。このような設計を今研究しながら全印工連としては皆さんに近未来になると思うが、汎用型のMISソフトの提供、そののちのコネクテッドインダストリーではないが、協力会社へのオンラインにおけるジョブの伝送までの活動を始めている。妄想の話ではなく、ファーストステップとして全印工連では経済産業省に話をもち掛けており、本当に日本の印刷産業がどれだけ生産力、製造力、供給力があって、市場がどれだけ萎んで、需給ギャップがどれだけあるのかという調査から入る。経済産業省と協業しながらの、官民の協業の調査結果に基づいてMISの開発に着手する計画を持っている。

ニーズや悩みが多様化

全印工連は、これから起こり得る経営環境に合わせたさまざまな組合支援メニューを用意していく。組合員の組合事業の利用度は、組合事業を多く利用されている方は多くの情報を理解されている。このようなかたちで組合の専務から直接情報を聞かれる皆さん、このような場で私から直接、話を聞かれる皆さんは比較的組合事業を多く利用されている方々である。私たちが一番どうしたら良いか凄く悩んでいるのは、利用の少ない、全く利用されていない方である。これは関心がない。この層の人が組合の事業を理解していないので、組合はメリットがないということになっていく。ここを何とか繋げていきたい。さらに今後の計画によってさまざまなメニューを用意しているが、接点がないと組合が開発したさまざまなソフトを皆さんのところに情報が届かないまま終わってしまう。そんなことが起こり得るので、是非、各地域の工組の皆さんとともにいろいろと取り組み、試行錯誤しながらやらせていただきたいと思っている。かなりの数の支援メニューを今抽出している。全印工連はなぜこんなに多くのメニューを出すのか。もっと言うと情報が多

いのかというと、皆さんのニーズや悩みが多様化しているからである。

中小企業経営革新支援法

1999年に先輩方が組合事業の見直しをした。1999年に何が起こったかということ、戦後、中小企業基本法に基づいて中小企業近代化促進法により、印刷産業は構造改善事業を行った。活版からオフセットへ、最新鋭の設備を入れて、生産性を上げて、皆さん利益を確保してください。そのためには事業計画書、試算表、決算書をしっかり書けるようになって、ある一定の認可を受けたら優遇して資金の貸出を行うという政策であった。勿論、時代のニーズによってモノがない時代で、それを利用してどんどん設備を入れれば、どんどん仕事が集まる。そんなに簡単ではないが、全体の流れとしてはそうであった。したがって日本の印刷産業は全国津々浦々で設備を入れた。隣が何を入れたのか、右の会社は何を入れたのかと、我先にいろいろな設備を入れた。生産力は一気に上がった。中小企業、印刷会社もかなり儲かった。1999年に国はその政策の方向転換を一気に180度行った。今までは、ものづくり、生産設備投資の1つの旗だけで良かった。目標は生産設備向上、生産設備投資、生産性の向上で良かった。この1つの御旗のもとに1999年まで国は旗を振っていた。1999年に中小企業近代化促進法が廃止になった。そして新たに中小企業経営革新支援法が生まれた。この中身は今までは生産設備投資による生産性向上を皆で目指そうという護送船団方式から各自で進む方向を決めてくださいという政策に変わった。

顧客接点

それが全印工連の事業のなかでの、「全印工連2005計画」である。国が方向を変えたので、全印工連としても組合員の皆さんに対するさまざまな支援メニューを一気に書き換える必要があった。そういった過去がある。20年前の話であるが、今までの設備投資をして、仕事を集めて、利益を上げるモデルの価値観を拭い去れない。国は既に人口減少を数字で持っていたので1999年の段階で、ただの製造業、ものづくり、他社と差別化のできないものづくりでは利益を確保できないということを20年前に謳っていた。その時から全印工連は業態変革とう名前のもとに皆さんの企業が新事業・新サービスの開発を行ってくださいということであった。20年も前である。20年経とうとしている今、それを改めて皆さんとしっかり共通認識をさせていただくなかで、これから変わりゆく環境変化のなか、新たな経営、新サービスづくりを目指していく。設備投資が悪という話ではない。新サービス・新事業、お客様との新たな接点を開発でき、設備投資したうえで損益分岐点、設備投資に対するリターンがしっかり見えている企業はどんどん設備投資をしたら良い。印刷通販は先発、後発いろいろな企業があるが、どんどん市場のシェアを拓けている。そこはどんどん設備投資をしている。赤字の垂れ流しかということ、そうではない。しっかり利益を出している。

一概に設備投資が悪だという話ではない。顧客接点をしっかりと作っていく。それが新サービス・新事業である。我々の一番勝率の高い、元々強みの持っている印刷事業の周辺領域、ここでさらに新たなサービスを付加することによってお客様に選ばれる確率を上げていこうという話である。お客様から選ばれる確率が上がれば、お客様のニーズに応えるため、物量を生産するため設備投資を行っていく。これが大変重要になってくる。特に東京は分かりやすい。もともと製版業と印刷業と製本業は、分業である。製版業の方々はおお客様の接点を見出してどんどん売上げを伸ばし、印刷設備を入れている。我々より10倍近くの売上げを集めている。顧客接点である。設備投資は悪ではない。ただ昔のように設備を入れれば売上げが上がるという時代ではない。

働き方改革

そのうえで、HAPPY INDUSTRYでどのようなかたちで企業の利益を上げていくのかという根本的な考えは、何が大きいかというと1999年以前は顧客満足を得るためには技術力、設備力であったので、多くの印刷会社は自社の会社案内に自社の事業所、社員、サービスよりも先に何の機械が何台入っているとあった。そういう時代ではない。今はどういったサービスができるのか、どういった人たちがサービスを提供しているのかに、会社案内はシフトしてきている。これから人材難が起こってくる。東京はもう起こっている。ひどい状況である。本当に人がいない。中小企業は人が取れない。人材の雇用、定着、今いて一生懸命頑張っている社員を今よりも1歩、2歩、安心してかつ成長していただきたい。結果として、今いる社員の皆さんがスキル、キャリアを身に付けた上でさらなる顧客満足を得るような支援メニューを全印工連で開発していく。顧客満足を得られるならば結果として企業の利益が向上してくるはずである。顧客満足が多くなり企業利益が出たら、人材の雇用、定着、育成を目指すため社内の環境、労務環境、社員が働きやすくなるよう改善していく。社員が働きやすくなるというと社員の迎合という話になるが、そうではなく、社員が今よりも利益を出してくれる仕組みを作ることである。難しいことではあるが、ここをやらなければこれからは企業利益が出ない。1人でも多く良い人材に残ってもらう。今いる人材が今よりも良いサービス・事業を開発してくれるようにする。経営者1人で走りまわるのは限界がある。1人でも他人がいたら能力を発揮してくれて、プラス会社の魅力を作ってくれるような環境を作る。それを、全体をまとめて働き方改革ということにした。

地区印刷協議会改革

HAPPY INDUSTRYは、1章から10章まで取りまとめている。10章が地区印刷協議会改革に向けてになっている。全国に9つの地区印刷協議会がある。東京と北海道は特別で、単組の開催になるので他の地区印刷協議会と比較するのは難しいが、作道副会長が担当して約2年間かけて研究してきた。それを2

年間かけて地区協改革を進めていこうということで進んでいる。このように忙しいなか、全道から札幌に集まっていたいで、持って帰っていただくモノが無ければ意味がない。経営者の集まりであるので、集まったら集まったなりの持って帰れるようなプラットフォームに、もう一度仕切り直そうではないかというのが地区印刷協議会改革の原点である。自分が情報を出せば何か返ってくるというプラットフォームに作り直そうと思っている。運営に関してはそれぞれの地域、地区のリーダーに委ねる。ここに集まるのに何時間もかかるが、何時間かけても良かった、面白かったと思っていただければ、絶対に組合組織は活性化していくし、その会議に出たいと思う方が増えてきたら大きなことである。皆さんから意見を岸理事長のところへ寄せていただきたい。全印工連としてただそれを北海道さん頑張っているということではなく、全国組織として支えるところはしっかり支えていきたい。

全印工連のあるべき姿

官公需対策はローカルルールを作るのは難しい。全印工連は加盟されているメリットの一つとして、1社、1地区では成し得ない課題を解決することが全印工連のあるべき姿であると思っている。昨年7月に官公需における知的財産権の取り扱いに関しては、しっかり価値を認めなさいということ勝ち得た。閣議決定のなかで中小企業の国等との契約の基本方針に明記された。今までのように契約書のなかに納品された印刷物のデータの著作権はすべて発注者側にあるや県・市にあるということは明記できなくなった。翌年度、新たな業者が安い値段で入れたら、そのデータを書き換えて増刷するような馬鹿げたことはこれから先、起きない。起きないというのは法律であり、起こさせないのは皆さんの実行力が伴わないと起きる。国が今までどおりの契約書で契約しなさいと言って、判を押してしまったら元のままである。地方行政の方が法律を理解していないだけのことである。全印工連のハンドブックを活用して行政に知らしめてほしい。全印工連はスケールメリットをかたちにして役に立って参りたいと思っている。各地域からさまざまな意見・要望をお寄せいただいて、かたちにしていくので支援をお願いしたい。

新しい印刷産業へのリ・デザイン

「HOPE2018」の開催にあたって

HOPE (HOKAKIDO PRINT EXPO) は、昨今の印刷産業の置かれている状況に呼応して、これまで培ってきました「北海道情報・印刷産業展」の伝統と成果を踏まえて、一昨年からの装いを新たに学びと情報発信の場として開催しています。

第3回となる今年のHOPE2018は、「新しい印刷産業へのリ・デザイン」をテーマに開催します。

お蔭様で展示会には46社81小間のご出展をいただき、セミナーは11セッションのご出講をいただき、8月31日(金)・9月1日(土)の2日間、札幌市白石区のアクセスサッポロを会場に開催の運びとなりました。

ご出展ならびにご出講いただきました印刷・情報機器、資材メーカーならびに関係各位の皆様のご協力とご理解に心から厚くお礼申し上げます。

昨今の道内印刷業界を取り巻く環境は、景気回復は未だ実感できないなかで、社会・経済構造がIoT、AIなどの新しい技術を中心とした移行期にあり、既存需要の縮小・新規需要創造のための業態変革への転換点に対峙し、新しい発想・目線での経営が余儀なくされており、勝ち残っていくためには、新しい印刷産業へのリ・デザインが求められています。

そのためには、ハードとソフトの両方に着眼して、新しい目線で印刷産業を捉えていかなければなりません。

我々が、再定義を成し遂げ、社会の要求に応えるビジネスを推し進めるためには、自社の設備や技術を向上させることはもとよりですが、同業者・関連業者・隣接異業種とのコラボレーションを積極的に展開することも勝ち残りのための方策の1つです。

加えて、先進事例、経営・技術環境の動向やユーザーの要望・印刷業界への見かたなどを学び、自社の指針を見出すことは勝ち残りのための絶対条件になることは自明の理です。

HOPE2018は、これらの要求に応える十分な情報発信と学びのプログラムを兼ね備えているものと自信を持っています。

新しいかたちの産業として発展を続ける印刷産業を、自身の目で確認するとともに、ユーザーの皆様や印刷産業に興味を持たれる若人にその姿を的確に伝えるため、広く声を掛け合って、「HOPE2018」にご来場され、展示会をご見学いただき、セミナーをご聴講くださいますようお願いして、開会のごあいさつとします。

HOPE実行委員会

会長 岸 昌洋

HOPE2018

8月31日(金)・9月1日(土)／アクセスサッポロで開催

HOPE実行委員会（北海道印刷工業組合、北海道グラフィックコミュニケーションズ工業組合、北海道製本工業組合、北海道フォーム印刷工業会、北海道紙器段ボール箱工業組合）は、HOPE(HOKKAIDO PRINT EXPO)2018を開催する。

今、印刷関連業界は、取り巻く環境が様変わりし、未曾有の転換期にあり、勝ち残っていくためには、印刷産業へのリ・デザインが求められている。

そのためには、ハードとソフトの両方に着眼して、新しい目線で印刷産業を捉えなければならない。

「HOPE2018」は、この期待に応えるため、これまで23回にわたり開催してきた「北海道情報・印刷産業展」の伝統と成果を踏まえ、内容とスタイルを変えて、学びと情報発信に主眼を置き、印刷産業が発展を遂げられる産業展として、装いを新たに一昨年から開催し、今年が3回目となる。

【主催】

HOPE実行委員会

北海道印刷工業組合
北海道グラフィックコミュニケーションズ工業組合
北海道製本工業組合
北海道フォーム印刷工業会
北海道紙器段ボール箱工業組合

【後援】

経済産業省北海道経済産業局
北海道
札幌市
北海道中小企業団体中央会
札幌商工会議所
北海道中小企業家同友会

【協賛】

(株)印刷出版研究所
(株)日本印刷新聞社
ニュープリンティング(株)

【会期】

平成30年8月31日(金)・9月1日(土)
10:00~17:00



【会場】

アクセスサッポロ（札幌市白石区流通センター4丁目3番55号）

展示会：Dホール
セミナー：小展示場
レセプションホール
研修室A

【交通案内】

公共交通機関利用の場合は、地下鉄東西線「大谷地駅」またはJR函館本線「厚別駅」が最寄り駅になる。車で来場の場合は、無料駐車場が利用できる。

【展示会出展社】

46社、81小間

【展示会出展機器】

印刷機械、プリプレス機器、製本機器、情報機器、加工機械等総合印刷機器、各種ソフトウェア、印刷製品等

【セミナー】

パネルディスカッション 2セッション
出展社企画セミナー 9セッション

《パネルディスカッション—— 8月31日(金)》

テーマ **真実のCSR～本業を通じたCSRの実態**

CSR、その本当の効果とはどのようなものなのか?2004年からCSR経営に注力する大川印刷。それは決して特別なものではなく「本業を通じたCSR」でありながら、数多くの成果を創出している。経営者のマネジメントから従業員を巻き込んだ活動について、工場と営業の責任者を交え、ディスカッションします。

- ◆ 日 時 : 平成30年8月31日(金) 10:30~12:00
- ◆ 会 場 : アクセスサポロ 札幌市白石区流通センター4丁目3-55
- ◆ テ ー マ : 真実のCSR～本業を通じたCSRの実態
- ◆ 受講申込 : 次のいずれかによりお申し込みください。
 - ①公式ガイドブック折込の申込書に必要事項を記入の上、FAX(011-595-8072)へ送信する。
 - ②北海道印刷工業組合ホームページ (<http://www.print.or.jp>) から専用フォームにより申し込む。
- ◆ 申込期日 : 平成30年8月24日(金)〔定員になり次第締め切ります〕

ファシリテーター	大川哲郎 氏	株式会社大川印刷 代表取締役社長	
<p>1967年横浜生まれ。幼少期から生き物や植物、自然が好きで、自然と触れ合いながら育つ。大学に入学した直後、父親を医療ミスで失う。大学卒業後3年間、東京の印刷会社で修行後、大川印刷へ入社。横浜青年会議所で、2002年社会起業家の調査研究、2004年に企業の社会貢献・CSRの調査研究を機に2005年、本業を通じて社会課題解決を行う「ソーシャルプリンティングカンパニー®」というビジョンを掲げ活動、現在は国連のSDGs(持続可能な開発目標)を経営計画に盛り込み、本業を通じた課題解決の実践を行っている。</p>			
パネリスト	菊地浩之 氏	株式会社大川印刷 常務取締役	
<p>横浜生まれ、親の都合で横浜・川崎で育つ。学生時代は陶芸部。粘土をこね、ろくろを回し心静かに作品をつくる。おもに工程管理、パートナー企業との打ち合わせ。色々な方と話ができて、自分が成長できるのが魅力です。こだわりはとにかくお客さまの要望に応えることです。</p>			
パネリスト	梶原 緑 氏	株式会社大川印刷 営業部サブリーダー	
<p>横浜美術短大卒業後、都内印刷会社で広告代理店メインの営業～横浜に引っ越すきっかけがあり、4か月プータローをしながら自分探し。その後、アシスタントとして配属されるも、営業とアシスタントの掛け持ち業務。企画営業として現在に至る。企画営業、ルート営業の他、自ら提案～製品化～納品まで対応。営業でもデザインの勉強が活かせ、クライアント、周囲の意図をくみながら製品づくりに携っています。</p>			

主 催 : HOPE実行委員会 (北海道印刷工業組合、北海道グラフィックコミュニケーションズ工業組合、北海道製本工業組合、北海道フォーム印刷工業会、北海道紙器段ボール箱工業組合)

後 援 : 経済産業省北海道経済産業局、北海道、札幌市、北海道中小企業団体中央会、札幌商工会議所、北海道中小企業家同友会

セミナー／第1日 [受講料無料：申込は<http://www.print.or.jp>からできます]

8月31日金

[会場] A：小展示場 B：レセプションホール C：研修室A

時間	会場	セミナー番号	主催会社	テーマ	講師
10:30 ～ 12:00	A	パネルディスカッション	HOPE実行委員会	真実のCSR ～本業を通じたCSRの実態	[ファシリテーター] 株式会社大川印刷 代表取締役社長 大川哲郎 氏 [パネリスト] 株式会社大川印刷 常務取締役 菊地浩之 氏 営業部サブリーダー 梶原 緑 氏
			ディスカッション 内容	CSR、その本当の効果とはどのようなものなのか？ 2004年からCSR経営に注力する大川印刷。それは決して特別なものではなく「本業を通じたCSR」でありながら、数多くの成果を創出している。経営者のマネジメントから従業員を巻き込んだ活動について、工場と営業の責任者を変え、ディスカッションします。	
13:00 ～ 14:30	A	①	リコージャパン(株)	地域密着型の善循環モデル ～値下げしないでお客様に貢献するには～	[モデレーター] 弘和印刷株式会社 代表取締役社長 瀬田章弘 氏 [パネリスト] 株式会社TONEGAWA 代表取締役社長 利根川英二 氏 株式会社大風印刷 企画営業係長 加藤憲二 氏 有限会社アサヒ印刷 代表取締役社長 漆澤知昭 氏
			講演内容	値下げをしないで仕事を獲得するにはどうしたらいいのか？ お客様から断られない仕事をするにはどうしたらよいのか？ 各地域のパネリストのみならず、どのように新規開拓を行ったのか？ どのように仕事が獲得できたのか？ どんな企画がお客様との関係性を強くしたのか？ など具体的に事例を元にトークいただきます。	
	B	②	株式会社小森コーポレーション	稼働データから読み取る問題解決 基礎スキル ～不機嫌な印刷現場の直し方 Part2～	株式会社小森コーポレーション PESP事業推進部 営業技術課 白石 徹 氏
			講演内容	『印刷準備に時間がかかる、機械速度が上げられない、チョコ停が多い⇒予定通りに作業が進まず⇒本来行すべきメンテナンス作業や社員教育の時間がなくなり⇒更に品質、稼働率が低下する』このような負のスパイラルを断ち切れなく、不機嫌な現場を作り出していないでしょうか？本セミナーではトラブルの発生要因や生産性を低下させている本質的な問題の発見方法と具体的な解決策を解説し、「ご機嫌な印刷現場」への改善ノウハウを伝授します。	
C	③	コニカミノルタジャパン(株)	IGAS2018から見えるデジタル印刷 動向とコニカミノルタの考える顧客 提供価値	コニカミノルタジャパン株式会社 マーケティング本部 IP事業統括部 部長 須田 徹 氏	
		講演内容	IGAS2018では各社新製品や新コンセプトを展覧します。そこから見えるビジネストレンドの解説とコニカミノルタのテーマであります「生産プロセス効率化」「付加価値印刷」を実現するソリューションをご紹介します。		
15:00 ～ 16:30	A	④	富士フイルムグローバル グラフィックシステムズ(株)	工程管理型営業から企画提案型営業 への脱皮 ～顧客から何を期待されていますか？～	株式会社富士ゼロックス総合教育研究所 ミラーハイマンコンサルティンググループ コンサルタント 牧 満 氏
			講演内容	顧客は貴社に何を期待しているのでしょうか？「期待通りの仕上がり」でしょうか？「どこよりも低い見積り」でしょうか？「納期どおりの納品」でしょうか？もちろん、このような基本的な品質やコスト、そしてその他のサービスは常に強化していかなければ生き残れません。しかし、このような当たり前の品質のみを強化して、今後の成長が約束されるのでしょうか。顧客は貴社に何を期待したいのでしょうか。ある印刷企業が実施した顧客の期待調査と、顧客の期待に基づく営業の働き方変革の事例をご紹介します。	
	B	⑤	ハイデル・フォーラム21 北海道地区会	経営者と現場が共に考える！ “環境対策=コストアップ”ですか？	ハイデルベルグ・ジャパン株式会社 ライフサイクル・ソリューションズ グループリーダー 佐藤麻衣子 氏 ライフサイクル・ソリューションズ 浅井貴行 氏
			講演内容	印刷業界を取り巻く激しい変化の中で収益力を維持することは極めて難しい状況となっています。生産性の向上、ムダの削減、そしてコストダウンといった取り組みは会社全体で取り組む重要な課題です。今回のハイデル・フォーラム21北海道地区会セミナーではハイデルベルグ・ジャパンから講師を招き、ハイデルベルグの環境対策につきましてご提案をさせていただきます。「環境対策=コストアップ」の常識が変わります。併せて、安心・安全な工場環境づくり「スマートエコファクトリー」の実現についてもお話しさせていただきます。	
C	⑥	キヤノンマーケティング ジャパン(株)	IGAS2018キヤノンブースから見る デジタル印刷のキーワード	キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ株式会社 マーケティング本部 池本親明 氏	
		講演内容	IGAS2018キヤノンブースでは、前後処理ベンダーと連携し、デジタル印刷を最大限に活用したデモンストレーションを行います。また、Smart Factory Zoneでは、ハードウェアベンダー、ソフトウェアベンダーと、ユーザーの3つの視点から製品マニュアル自動化生産システムの構築ポイントをご紹介します。本セミナーでは、これらの取り組みの中から見えたデジタル印刷のキーワードをご紹介します。		


《パネルディスカッション——9月1日(土)》


テーマ **デザインだいじ**


わたしたちはグラフィックデザイナーとして、印刷というアウトプットに密接に関わるデザインを主としていますが、今やその領域は多岐に渡り、「紙に印刷する」ことだけに執着する訳には行かない時代になりました。そうすると改めて「デザイン」することの大切さを痛感し、模索しているところです。何のために「デザイン」するのか、するべきなのか？ 過去の実例を紹介しながら、これからのデザインのあり方を、みなさんと一緒に考えていきたいと思えます。

- ◆ 日 時 : 平成30年9月1日(土) 10:30~12:00
- ◆ 会 場 : アクセスサッポロ 札幌市白石区流通センター4丁目3-55
- ◆ テー マ : デザインだいじ
- ◆ 受講申込 : 次のいずれかによりお申し込みください。
 - ①公式カイドブック折込の申込書に必要事項を記入の上、FAX(011-595-8072)へ送信する。
 - ②北海道印刷工業組合ホームページ (<http://www.print.or.jp>) から専用フォームにより申し込む。
- ◆ 申込期日 : 平成30年8月24日(金)〔定員になり次第締め切ります〕

ファシリテーター	工藤 “ワビ” 良平 氏 デザイン株式会社 代表取締役	アートディレクター・グラフィックデザイナー 北海道芸術デザイン専門学校夜間部講師 札幌アートディレクターズクラブ運営委員 日本グラフィックデザイナー協会理事
	1963年函館生まれ。北海道総合美術専門学校卒業後、デザインプロダクション、広告代理店を経て、2010年にデザイン株式会社を設立、現在に至る。1999年から中西「サビ」一志とのデザインコンビ「ワビサビ」を結成し、アドタイピングから、グラフィック、オブジェ、映像、インテリア、ファッションまで多方面におけるディレクション&デザインを努める。世界ポスタートリエンナーレトヤマ金賞、ニューヨークADC銀賞、台湾国際ポスターアワード銅賞、ショーモンポスターフェスティバル入選、D&AD FACE TO WATCH2009、JAGDA新人賞2005、JAGDA賞2012、東京ミッドタウンアワード準グランプリ、全北海道広告協会賞、栗谷川健一賞ほか受賞多数。	

パネリスト	寺島賢幸 氏 有限会社寺島デザイン制作室 代表取締役	アートディレクター・グラフィックデザイナー 札幌アートディレクターズクラブ会員 日本グラフィックデザイナー協会会員
	1961年札幌生まれ。北海道造形デザイン専門学校卒業後、地元広告代理店を経て1992年有限会社寺島デザイン制作室設立。おもに北海道内のクライアントのブランディングを中心に広告、グラフィックデザインを手がけている。JAGDA新人賞2001、台湾国際ポスターアワード金賞、中国グラフィックデザインアワード商業部門ベストアワード、ニューヨーク・アートディレクターズクラブ銅賞、ニューヨークフェスティバル銅賞、香港国際ポスタートリエンナーレ銅賞、ショーモンポスターフェスティバル3位、シカゴ国際ポスタービエンナーレ タイポグラフィ賞、全国カレンダー展 日本印刷産業連合会会長賞、全北海道広告協会賞、栗谷川健一賞ほか受賞多数。	

パネリスト	鎌田順也 氏 KD主宰	アートディレクター・グラフィックデザイナー 東海大学非常勤講師 札幌大谷大学非常勤講師 札幌アートディレクターズクラブ運営委員 日本グラフィックデザイナー協会北海道ブロック幹事
	1976年生まれ。東海大学卒業。北海道芸術デザイン専門学校卒業。「洋菓子きのとや」「松尾ジンギスカン」「トモエ福山醸造」、横浜の和雑貨ブランド「濱文様」「東京ミッドタウン デザインタッチ」など北海道内だけでなく全国規模の企業ブランディングを手がける。近年は北海道沼田町 暮らしの安心センターのサイン計画など行政の案件も多く手がける。ニューヨークONE SHOW金賞・銅賞、ロンドンD&AD金賞・銀賞・銅賞、中国国際ポスタービエンナーレ銅賞、グッドデザイン賞、JAGDA新人賞2014、JAGDA賞2011、日本パッケージデザイン大賞金賞・銀賞・銅賞、日本サインデザイン賞最優秀賞など受賞多数。	

パネリスト	野村ソウ 氏 STUDIO WONDER 主宰	アートディレクター・グラフィックデザイナー 株式会社WONDER CREW専務取締役 株式会社N.wonder専務取締役 札幌アートディレクターズクラブ運営委員 日本グラフィックデザイナー協会会員
	1982年札幌生まれ。ショップのブランディング、企業のCI設計を中心に活動し、様々な業種のアートディレクションを担当。自社で飲食店の経営も行っている。札幌アートディレクターズクラブコンペティショングランプリ・準グランプリ・審査員賞・新人賞、中国国際ポスタービエンナーレ銅賞、ラハティ国際ポスタートリエンナーレ入選、JAGDA入選、東京TDC入選など受賞多数。	

主 催 : HOPE実行委員会 (北海道印刷工業組合、北海道グラフィックコミュニケーションズ工業組合、北海道製本工業組合、北海道フォーム印刷工業会、北海道紙器段ボール箱工業組合)

後 援 : 経済産業省北海道経済産業局、北海道、札幌市、北海道中小企業団体中央会、札幌商工会議所、北海道中小企業家同友会

セミナー／第2日 [受講料無料：申込は<http://www.print.or.jp>からできます]

9月1日

[会場] A：小展示場 B：レセプションホール C：研修室A

時間	会場	セミナー番号	主催会社	テーマ	講師
10:30 ～ 12:00	A	パネルディスカッション	HOPE実行委員会	デザインだいじ	<p>[ファシリテーター] デザ院株式会社 代表取締役社長 工藤“ワビ”良平氏</p> <p>[パネリスト] 有限会社寺島デザイン制作室 代表取締役 寺島賢幸氏 KD 主宰 鎌田順也氏 STUDIO WONDER 主宰 野村ソウ氏</p>
			ディスカッション内容	<p>わたしたちはグラフィックデザイナーとして、印刷というアウトプットに密接に関わるデザインを主としていますが、今やその領域は多岐に渡り、「紙に印刷すること」だけに執着する訳には行かない時代になりました。そうすると改めて「デザイン」することの大切さを痛感し、模索しているところです。何のために「デザイン」するのか、するべきなのか？過去の実例を紹介しながら、これからのデザインのあり方を、みなさんと一緒に考えていきたいと思ひます。</p>	
13:00 ～ 14:30	A	⑦	リョービMHI グラフィックテクノロジー(株)	IGAS2018 出展レポートと 印刷現場の改善事例	<p>リョービMHIグラフィックテクノロジー株式会社 札幌支店長 高田博史氏 東日本サービス部副部長 富岡英久氏</p>
			講演内容	<p>日ごとに厳しさを増す、短納期ニーズや品質管理要求に応える印刷現場。当社は自動化・省力化・短納期化に寄与する新製品をIGAS2018にて出展。デジタル印刷機や POD新製品などの IGAS出展情報もご紹介しします。また日常の印刷機メンテナンスについても印刷現場での事例をご紹介しながらわかりやすくご説明しします。</p>	
	B	⑧	(株)モリサワ	「フォントと組版のいろは」を学ぶ会 ～印刷物とWebの制作で参考になる基礎知識を90分で学ぶ勉強会～	株式会社モリサワ 村山浩司氏
					講演内容
C	⑨	リコージャパン(株)	旬なテクニックに触れる Illustrator、Photoshop最新動向	株式会社スイッチ 代表取締役 鷹野雅弘氏	
				講演内容	<p>2012年にリリースされた Creative Cloudは、メジャーアップデート以外のタイミングでも機能強化やバグ修正などが行われています。最新のバージョンで可能になったことや、よく見かけるデザイン処理など、Illustratorや Photoshopの旬のトピックをご紹介します。</p>

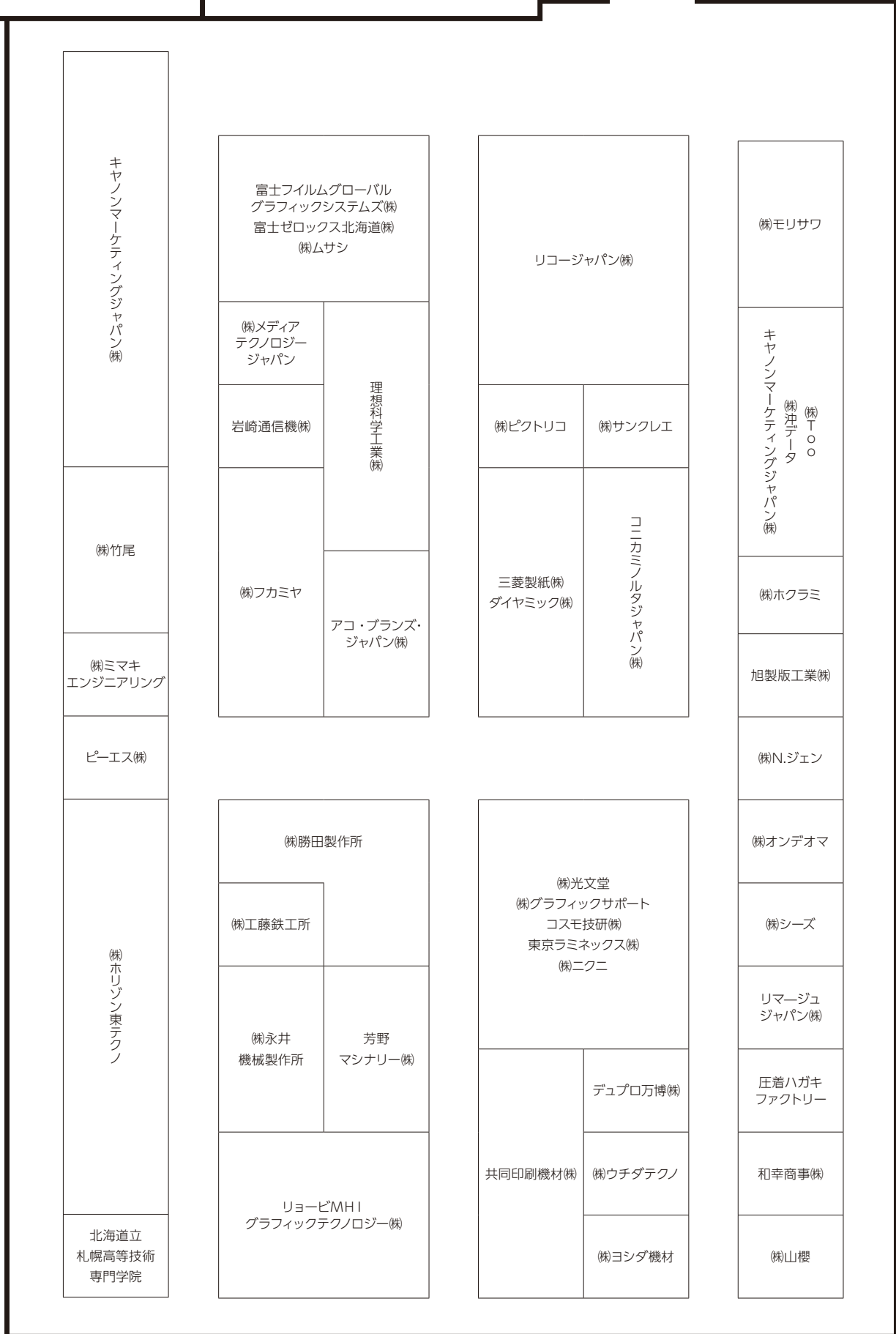
展示会 会場案内図

受付



出入口

事務局



HOPE2018 出展一覧

アコ・ブランズ・ジャパン(株)

オートラミネーター6200S PLUS
 デスクトップラミネーターH355 A3
 ツインルーパインドS310

旭製版工業(株)

小型インクジェットフィルムプリンタpagejone
 A3インクジェットフィルムプリンタ・A3フィルム作成システム

圧着ハガキファクトリー

圧着ハガキサンプル

岩崎通信機株式会社

イーゼル看板×手描サイネージEasy Writer
 ブラボー!マット2
 マルチカードスリッターきりっ子MC-22T

(株)ウチダテクノ

紙計数機カウントロンX
 帯掛機テーピットWX-P
 Aero Cut nanoプラス
 シュリンク包装機smipackSL55

(株)N.ジェン

自動組版ソフトプラグイン「組技」
 データベース「蔵技」
 スマホアプリinfoGrove

(株)沖データ

高速プロフェッショナルLEDプリンタMICROLINE VINCI C941dn

(株)オンデオマ

Web名刺受発注システム

(株)勝田製作所

断裁機SH380HOWJMC-7
 断裁機SH380HOWJMC-4tx
 小型断裁機KC-66

キヤノンマーケティングジャパン(株)

カラーオンデマンドプリンタimagePRESS C850
 カラーオンデマンドプリンタimagePRESS C65

共同印刷機材(株)

商談コーナー

(株)工藤鉄工所

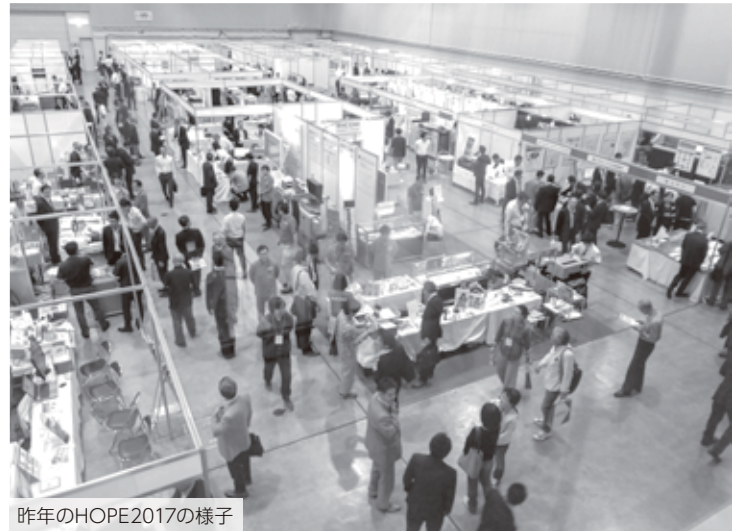
オートリフター ラ・クーンAL-9

(株)グラフィックサポート

XEROX C5000d
 Card impact001
 Presious NAS

(株)光文堂

KBDモーションラッピング
 KBDビットマッチプロ



昨年のHOPE2017の様子

KBDキッズサイネージ
 KBDスーパービジョンパック1
 KBDラウンドLED
 KBD V-color
 KBD ID-FX
 KBDスピンミキサー
 KBDフィダーUF-01
 KBDニューソリューションミニ

コスモ技研(株)

小型LED-UV装置

コニカミノルタジャパン(株)

AccurioPRESS C308
 JETvernishi3 Devolution(サンプル展示)

(株)サンクレエ

印刷業界向経営管理システムHIGUMA

(株)シーズ

印刷通販パッケージ

ダイヤモンド(株)・三菱製紙(株)

サーマルCTP(四六半裁対応)MADIATH
 梱包用エアクッション作成マシン Balloon Meister(バルーンマイスター)
 現像レス小型CTP TDP-750

(株)竹尾

商品展示紹介

(株)Too

PDF校正ソフト Proof Checker PRO
 パッケージデザイン向け文字検版支援ソフトウェア
 「フォルトファインダー プロ」
 検査・検版システム「Hallmarkerシリーズ」
 Office新旧比較校正システム「新旧文書」
 制作・プリプレスワークフロー自動化/設計・運用ソ
 リューション SWITCH
 PDFワークフロー PitStop Pro



昨年のHOPE2017の様子

デュプロ万博(株)

マルチフィニッシャーDC-516
アドレスプリンターDIJ-A80
ハガキ・封筒検査装置SN100

東京ラミネックス(株)

TORAMI ZD
TOLAMI SDX400
TORAMI RSL-382S

(株)永井機械製作所

コンピュータ断裁機

(株)ニクニ

エバークリーンECQ-503

ピーエス(株)

一流体加湿システム モノフォグ
遠心式加湿器ABS3
附属設備

(株)ピクトリコ

インクジェットプルーフ

(株)フカミヤ

FujiXerox B9136
FujiXerox GX PrintServer for the B9 Series
FreeFlow Makeready
アイグラフィックス 枚葉UV-LED
アイグラフィックス BF用UV-LED
アイグラフィックス シール用UV-LED

富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ(株)

次世代ハイブリッドワークフローXMF CompleteV6.5
Rimore R10.5
色見本色合わせシステム Real Match Assistant
インクジェットデジタル印刷機(パネル展示・出力サンプル)

富士ゼロックス北海道(株)

カラー・オンデマンド・パブリッシング・システムVersant3100Press
外付けコントローラーVersant3100Press
プリンターサーバーディスプレイ
大容量スタッカー
中綴じフィニッシャーD4
トリマースクエアフォールド
インターフェイスモジュール

(株)ホクラミ

店舗用販促アイテム

北海道立札幌高等技術専門学院

電子印刷科紹介

(株)ホリゾン東テクノ

無線綴機BQ-480、BQ-P80
自動筋入機CRA-36
紙折機PF-40L
ミシン機VP-53
紙折機AFC-566FKT・PST

(株)ミマキエンジニアリング

プリンタUFJ-6042MKⅡ
プリンタCFL-605RT

(株)ムサシ

名刺ハガキプリンタMP300Duo
LaserPro c180Ⅱ
オンデマンドプリンタ用光沢加工機DC-2

(株)メディアテクノロジージャパン

ワークフローRIP EQUIOS

(株)モリサワ

インバウンド対応UD情報発信ツールMC Catalog+
ハイエンド組版編集ソフトウェアMC Smart3
高品質可変バリエーブル印刷ソフトMVP7
多言語対応ユニバーサルデザインフォント
クラウド対応レイアウトエンジン「LayoutSquare」

(株)山櫻

封筒対応高速インクジェットプリンタ
フルカラーレーザープリンタDocuPrint C5000d YAモデル
小サイズ・名刺・はがきプリンタCARDMATE Digica Rev.6

(株)ヨシダ機材

商談コーナー

芳野マシナリー(株)

貼込機964型

リコージャパン(株)

カラーオンデマンドプリンタRICOH ProC9110
カラーオンデマンドプリンタRICOH ProC7200
カラーオンデマンドプリンタRICOH ProC5200

理想科学工業(株)

ORPHIS GD9630ORメーリングフィニッシャーⅡ
ORPHIS GD9630GDオフセットステーブル排紙トレイ
RISOGRAPH MF935W
RISOGRAPH SE939

リマージュジャパン(株)

Rimage Catalyst6000N
Rimage Allegro100

リョービMHIグラフィックテクノロジー(株)

A3縦通しオフセット印刷機RMGT340CR-1

和幸商事(株)

商品展示

(五十音順)

第2回『印刷と私』エッセイ・ 作文コンテスト作品募集のご案内

一般社団法人日本印刷産業連合会グリーンプリンティング認定事務局は、第2回「印刷と私」エッセイ・作文コンテストを実施する。「私にとって大切な本」「心に残っているポスター」「印刷の思い出」など、印刷にまつわるエッセイ・作文を募集している。

審 査委員長は「くまモン」の生みの親である
小山薫堂氏。

【テーマ】

「印刷と私」印刷にまつわるエッセイ・作文

※タイトルは自由。必ず付けて応募のこと。

【募集内容】

(1)一般の部／中学生以上：エッセイ（800字以内）

(2)小学生の部／

小学1年生～6年生：

作文（400字以内）

【応募締切】

平成30年8月26日(日)

詳細は、下記ホームページ（日印産連）を参照。

<https://www.jfpi.or.jp/greenprinting/contest>



業 界 の う ご き

▶横田印刷株式会社長に横田康裕氏

横田印刷株式会社(紋別市港町4丁目1番21号)は、このたび、澤田清志社長に代わり、新しく代表取締役社長に横田康裕氏が就任した。

新 規 加 入 賛 助 会 員

エイチケイエム紙商事株式会社	〒006-0832 札幌市手稲区曙2条4丁目3番27号
【代表者】森田伸介 TEL.011-699-8686	FAX.011-699-8687 平成30年7月1日加入
東洋インキ北海道株式会社	〒063-0062 札幌市西区西町南11丁目1番36号
【代表者】吉野克宏 TEL.011-661-4425	FAX.011-664-9019 平成30年7月1日加入
ハイデルベルグ・ジャパン株式会社札幌営業所	〒065-0022 札幌市東区北22条東15丁目3番1号友美コート
【代表者】山本謹博 TEL.011-214-0520	FAX.011-214-0521 平成30年7月1日加入